

東日本大震災で被災した昆虫標本の修復作業

2011年7月15日
滋賀県立琵琶湖博物館

東日本大震災で被災した岩手県の陸前高田市立博物館の昆虫標本を琵琶湖博物館で受け入れ、その修復作業を行っています。現在も修復作業は継続中ですが、ここでは被災した昆虫標本の受け入れの経緯と標本の修復作業の様子を紹介します。

<経緯>

東日本大震災の津波で、多くの人命が失われるとともに、多くの施設が壊滅的な被害を受けました。岩手県の陸前高田市立博物館もその一つで、収蔵庫に保管されていた貴重な資料が被災しました。

被災した地域の貴重な標本を救済しようと、岩手県教育委員会や岩手県立博物館などが、全国の呼び掛けたところ、25の博物館から協力の申し出があり、運び出された植物標本と昆虫標本が各施設に分配され、標本の修復作業が始まったところです。

昆虫標本については、救済の要請が4月27日に昆虫担当学芸員協議会（事務局：大阪市立自然史博物館）のメーリングリストに流れました。昆虫担当学芸員協議会というのは、全国の博物館で昆虫を担当している学芸員同士の連携を図るための組織です。当館でも館内の合意を得て、すぐに昆虫標本箱10箱の受け入れの表明をいたしました。

<レスキュー作業>

当館には、5月21日に10箱が送られてきました。すべてチョウ類の標本で、約1000点になります。蓋のガラスが壊れたものが一箱あり、標本箱の中に泥が入っているものが4箱、中には泥をかぶった標本や翅がとれている標本など、かなりダメージを受けた箱もありました。これから泥がかぶったチョウの標本は、洗浄液をつけた小さな筆で泥を丁寧に除去し、翅のとれた標本は木工用ボンドで修復していきます。いずれにしても、職員が丁寧に時間をかけて修復を行っていきます。

標本到着

2011.5.21 岩手県立博物館 藤井千春学芸員からドイツ箱を梱包した段ボール箱が届く。
10箱（すべて鱗翅目）約1000点。



カビが生えないようにすぐに冷凍庫に保管



標本の状態

泥が入った標本箱



泥をかぶったチョウの標本



ガラスが割れた標本箱



チョウの翅が落ちているものもある



標本の修復

2011.6.8 泥の入った標本箱の標本を新しい標本箱に移し替え作業をしているところ。資料整理職員の武田滋さんが作業。



泥がかぶったチョウの標本は、洗浄液をつけた小さな筆で泥を丁寧に除去し、翅のとれた標本は木工用ボンドで修復していく。泥のかぶったデータラベルも洗浄する。



展翅し直した標本



(担当：八尋克郎総括学芸員 ・ 榎永一宏主任学芸員)